

本校の人権教育の目標

- 地域の実態や生徒の発達段階を考慮しながら、学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神の涵養を図る。
- 人権感覚や人権意識を自然と身につけることができる人権教育の整備・充実を図る。

本校の人権教育の視点

- 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる生徒の育成に努める。
- 生徒の発達段階に即した指導目標を設定する。
- 将来への夢・目標を持ち、自分の進路を自ら選択できる職業観・勤労観を育てる。

I 実践

1 実践テーマ

人権感覚を身に付け、互いの人権を尊重し友達を思いやる心をもとうとする生徒の育成

2 あいさつ運動の実施

本校のあいさつ運動は、生徒会本部を中心に、各学期に1度、1週間～2週間程度の期間に行われる。本年度は、6月と12月に行われた。あいさつ運動最終日には「チャンスデー」を設け、担当する日に参加できなかった生徒が参加し、学級の参加率を高めることができるようにした。学級ごとに行ったあいさつ運動は、「学級全員であいさつ運動に取り組もう」という学級の団結力を深める一助となった。



あいさつ運動の取り組みの様子

3 人権だよりの発行

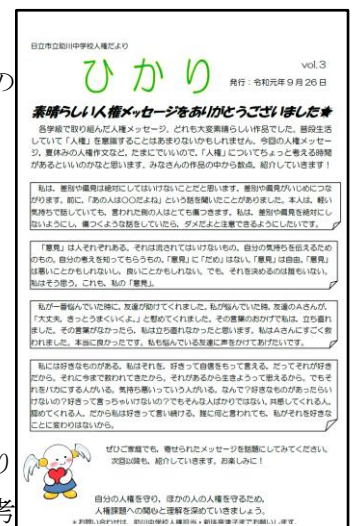
今年度は、生徒の人権意識を高めるため時事問題や社会情勢、生徒の活動に合わせ人権だよりを発行している。

茨城県のパートナーシップ協定についてや、豪雨被害と人権問題についてなど、身近なテーマを取り上げたことで、日常生活の中で自己の人権感覚をどう高めていくか、生徒に投げかけることができた。また紙面において、生徒の人権メッセージを紹介し、友達の作品を読むことで、相手を思いやる意識を高めることができた。

4 人権メッセージ

学級活動などの時間を使い、全校で人権メッセージを書くことに取り組んだ。一人ひとり真剣に取り組む、各学級3名ずつ応募し、校内選考に残った作品は、人権コーナーや人権だよりにて紹介した。

メッセージを作るというきっかけを通して、「人権」というテーマに向き合う機会をもったことで、生徒の人権意識が高めることができた。掲示されている作品に足をとめて読んでいる生徒も多く、友達を考えや投げかけを知ることで、生徒それぞれの人権感覚が高められている。



人権だより「ひかり」

～人権メッセージの一例～

学校に来たら話しかけてくれる友達がいる、笑いあえる友達がいる。やさしくしてくれる先生がいる。ここに来るまでは居てもいいんだらうかって思った。けど違った。来てみて分かった。歓迎してくれる人がいて、自分のために頑張ってくれた親と先生。自分はここにいていいんだって思えた。自分の居場所を見つけられた。

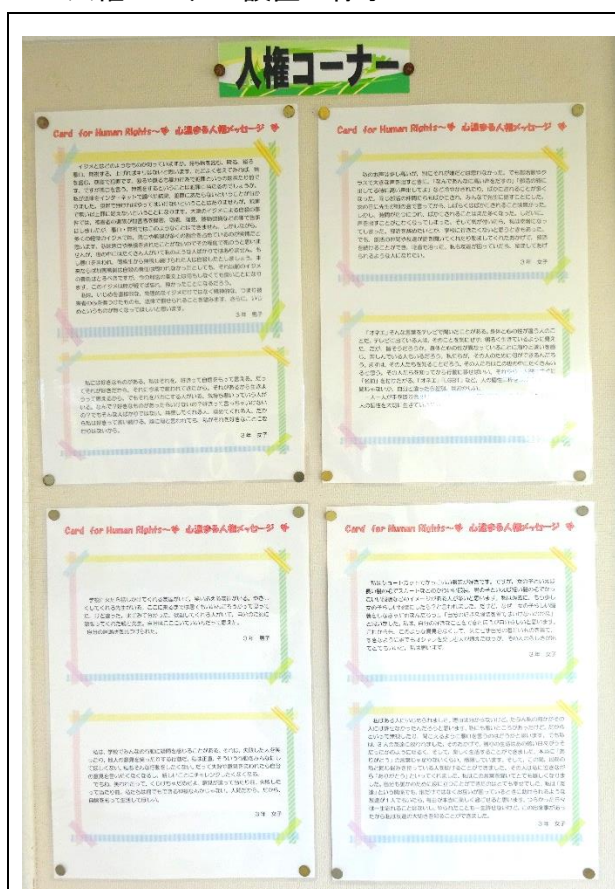
(3年 男子)

Ⅱ 今後の課題

生徒一人ひとりの人権意識を高めるためには、日常生活の中での意識付けが大切である。あいさつ運動では、学級として活動することで、学級の一員なんだという所属感を得ることができ、あいさつを交わすことを通し、自己肯定感を育むことができた。人権だよりや人権メッセージの取り組みを通じ、継続して取り組んでいくことで、生徒が人権について考える機会をもち、学校教育全体で人権意識を高めていきたい。

人権教育は特別な教育ではなく、学校教育全体を通して行う教育活動である。教師も人権教育への意識を高め、共通理解のもと人権教育を推進していくように、研究や研修を充実させていきたい。学校教育を通し、生徒一人ひとりの人権意識を高め、実践できる態度を育てていきたい。

Ⅲ 人権コーナー設置の様子



人権コーナーでの掲示の様子

人権コーナーでは、生徒の人権メッセージを紹介している。人権コーナーを既定の場所に加え、階段の踊り場を利用し増設した。場所を増やしたことによって多くの生徒の目に触れ、毎日の学校生活の中で人権意識を高めていくことができた。